

アフリカ生まれ日本初、 たたいて育つ一体感

企業やチームの一体感を高め、会議が活発になるなど、コミュニケーションをスムーズにする効果があるとして世界各国、多くの企業で採用されている手法に「インタラクティブ・ドラミング」がある。これは西アフリカの太鼓「ジエンベ」を、案内役（ファシリテーター）、演奏者の指示に従って参加者全員でたたくというもので、ある程度の時間行くと、参加者同士の距離感はぐっと近くなるというもの。

このドラムをたたくことで、人々のコミュニケーション能力を向上させることを目的とする会社が「ドラムカフェ」。現在世界17カ国に現地法人があり、本社は1995年に設立された南アフリカ・ヨハネスブルクの「ドラムカフェインターナショナル」。創業者はウォーレン・リーベルマン氏。

このリーベルマン氏のドラムを通して、相互理解を深めようという考え方・活動に共感し、同氏からの要請もあって「太鼓（ドラム）」で日本を元気にしよう」と立ち上がったのが、仙台在住の星山真理子氏。

星山真理子代表取締役と
櫻井亮太郎海外事業部長



同氏がドラムカフェジャパンを設立する経緯は非常にドラマティック。09年5月、来仙したリーベルマン氏に通訳として出会い、6

月には南アフリカで本場の活動を目の当たりにし、ドラムカフェの虜に。その2カ月後に、仙台で日本人（柳区五橋）をスタート、設立と同時に代表取締役として就任するスピーディーさ。海外との交渉を取り仕切っている、海外事業部長の櫻井亮太郎

氏は、星山氏を「バイタリテイがものすごく豊富な人」と評し、そのキヤラクターからか、「事業開始以来、ドラムカフェジャパンの活動は大変活発（同）という。

この3月にはプレスリリースを行うなど、活動をいっそう充実させた。路上イベントから、異業種交流会などさまざまな機会を設けて、パフォーマンスを披露している。

「今年にはドラムカフェを日本で根付かせる基礎づくりの年と位置づけ、イベント参加や独自の企画も実施して、認知度を高めていきたい」（星山氏）。

世界の大企業が採用、地元プロスポーツにもPR

ドラムカフェが世界で行ったイベントの回数はすでに2万回以上。国際的な会議や新車発表会、北京五輪開会式でも披露され、マイクロソフト社などの大企業もクライアントだ。また、今年南アフリカで行われるサッカーワールドカップ開会式でもドラムカフェはパフォーマンスをを行う。「ドラムカフェの活動はクリントン前米大統領をはじめとする世



3月27日に行われたサンモール一番街でのイベント

界のリーダーの方々からも大変信頼をいただいています」（星山氏）。

星山氏の、最近の願いは在仙のプロスポーツ3社に、インタラクティブ・ドラミングを体験してもらおうこと。すでに何度か提案を行っている。「たとえば、東北楽天ゴールデンイーグルスさんが採り入れてくれたら、もつとチーム内の絆は強くなると思います。そうなれば我々としても地元貢献といえますし、ドラムカフェの活動に興味を持ってくれる人ももつと増えるでしょう」（星山氏）

現在、ドラムカフェジャパンは収支の面でも順調に推移、「一年目から黒字化できそう」（同氏）だ。演奏者は常時数人が日本に派遣されている。ドラムをたたく音が日本中から聞こえる日が来るのも、そう遠い未来ではないかも知れない。

ここがツボ!



- ◎ クリントン前米大統領も支持
- ◎ サッカーワールドカップでも披露
- ◎ スポーツチーム、学校、企業で行える